

## 第50回島根県総合開発審議会

日 時 令和元年7月3日(水)

13:30～15:30

場 所 島根県職員会館多目的ホール

○事務局 それでは、ただいまから第50回島根県総合開発審議会を開催いたします。

開会に当たりまして、まず、知事から御挨拶申し上げます。

○丸山知事 皆様こんにちは。本日は大変御多忙のところ、本審議会の委員への御就任、御快諾賜りまして、御出席いただきましてまことにありがとうございます。

今般、平成20年3月に策定いたしました島根県総合発展計画、そして平成27年10月に策定いたしました島根県総合戦略につきましては、本年度末をもってこの計画期間が終了するというところでございますので、新たな県の総合計画として、島根創生計画を策定したいと考えているところでございます。

この島根創生に当たりましては、まず、若い世代にこの島根に残ってもらう、また戻ってきてもらうために、第1次産業から第3次産業までの産業振興を一層進めまして県民所得を引き上げ、若い方々の雇用をふやしていく、そして若いこの子育て世代の皆さん方にもう一人子供を産み育ててみようと思っただけの子育ての支援の充実ですとか、この子育てと両立できる働きやすい職場づくりといったものを進めることによりまして、島根に生まれる子供さん方の数をふやしていくといったことに取り組んでまいります。

あわせて、中山間地域ですとか離島といった、長年の人口減少に苦しんでいる、痛みの出ている地域に対する支援、この生活、産業を守っていくということとともに都市の強みを伸ばしていくことで、2つのこの地域が連携してこの島根の全体の発展につながっていくといった地域づくりを進めてまいります。

また、山陰自動車道の早期開通を初めといたします産業振興や、県民生活の基盤となりますインフラの整備を進めていきますとともに、そのもととなる、いろんな要素のもとになります島根の魅力を幅広く発信いたしまして、県内外の人々のきずなを深めまして、大都市からのUターン、Iターンの拡大につなげていくといったことを進めるためにも、ふるさと教育や教育の魅力化などを通じまして、島根を支える、つくってもらう人材育成に取り組んでいく必要があると考えておるところでございます。

さらに、保健、医療、介護を充実させて健やかな暮らしを支えるとともに、教育の充実

やスポーツ、文化芸術の振興などを通じまして心豊かな社会をつくっていく、また、暮らしの基盤となります生活交通の確保など、また防災対策などを推進して、安全安心な暮らしを守っていききたいと考えておるところでございます。

私自身も、本審議会に加えましてさまざまな現場に出まして、県民の皆さんのお話を直接伺う形で、現場主義と県民目線を徹底いたしまして取り組んでいきたいと考えておるところでございます。本審議会におかれましては、この島根創生計画につきまして、各界の皆様のご貴重な御意見を幅広く頂戴したいということで御参集をお願いしたところでございます。幅広い御意見を忌憚なく頂戴いただきますよう、お願いを申し上げます。

あわせて、各地域別の公聴会ですとか、同じく県民、住民の皆さんの福祉向上に努めております市町村長さん方のお考えを伺う機会を別途設けまして、幅広く意見をお聞きして策定していきたいと考えておるところでございます。

本日は大変お忙しい中、貴重なお時間を頂戴いたしますけれども、ぜひとも幅広い、忌憚のない意見を頂戴いただきますようお願い申し上げまして、開会に当たりましての御挨拶とさせていただきます。どうかよろしく願いいたします。

○事務局 皆様には、本日から2年間、委員として御就任いただくこととなります。快くお引き受けくださったことに感謝申し上げます。略式ながら、お手元に委嘱状を置かせていただきました。どうぞよろしく願いいたします。

本日は、御就任いただいて初めての審議会であります。本来なら委員お一人様ずつ御紹介すべきところですが、時間も限られておりますので、お手元の委員名簿により御紹介にかえさせていただきます。委員名簿は、今、お配りをさせていただきます。

なお、本日は、県連合婦人会の藤田副会長様、県商工会議所連合会の古瀬会頭様、山陰合同銀行の吉田部長様が御都合により欠席です。また、県市長会の松浦会長様は公務のため欠席ですが、オブザーバーとして吉山常務理事に参加いただいております。

それでは、これから議事に入るに当たり、本会議の議長は、審議会規則第4条第1項の規定により、会長に議長を務めていただくこととなっておりますが、最初の審議会ですので、議事の(1)会長、副会長の選任については、事務局が進行させていただきます。

○事務局 まず初めに、本日は委員の半数以上が御出席でございますので、審議会規則第4条第2項の規定により、会議が成立していることを御報告いたします。

また、島根県ではこのような審議会については、個人情報を取り扱う場合など特別な理

由があるものを除きまして、原則公開で行うよう条例で規定しております。このことから、本会議につきましても、従来より公開とさせていただきます。

あわせて議事要旨につきましては、後日、県のホームページに記載することとしておりますので、御了承いただきますようお願いいたします。

それでは、最初の議事であります、会長、副会長の選任についてでございます。

審議会規則第3条の規定により、委員の互選により選任することとなっております。委員の皆様の御意見をお伺いしたいと存じます。

御意見がないようでございますので、事務局より、会長につきましては、島根大学の服部学長様にお願いしてはと思っておりますが、いかがでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○事務局 ありがとうございます。それでは、御承認されました。

続きまして、副会長の選任でございますが、会長に推薦していただいておりますが、いかがでしょうか。（拍手）

それでは、服部会長、御推薦のほうをよろしく申し上げます。

○会長 それでは、副会長には、社会福祉の分野において活躍され、現在、県の多くの審議会等の委員を務めておられます、島根県社会福祉協議会副会長の室崎委員さんをお願いしたいと思いますけれども、いかがでしょうか。（拍手）

○事務局 よろしゅうございますか。それでは、承認されました。

それでは、審議会規則第4条第1項の規定により、会長に議長をお願いすることとなっております。服部会長、室崎副会長におかれましては、前のほう、議長席、副議長席へ御移動をお願いいたします。

それでは、服部会長にまず御挨拶をお願いしたいと存じます。

○会長 皆様こんにちは。ただいま、委員の互選ということで、非常に任の重い審議会の会長ということにさせていただきました。今、先ほど丸山知事の御挨拶の中にありました、知事の島根県政に対する思い、それから、あすの島根県をいかにつくるか、その思いも、今、伺うことができました。その知事の思いを込め、また、本日この場にお越しいただいております県内各界の皆様方の御意見を賜りながら、島根県の創生のために我々としてはしっかりと議論をして、知事のほうにまたお返ししたいと考えております。

本日は、お忙しいところではございますけれども、今後ともよろしく申し上げます。

○事務局 ありがとうございます。

続きまして、室崎副会長に御挨拶をお願いいたします。

○副会長 済みません、何か高いところで怖いようなんですが、県社協の副会長、それと、ここが大事なんです、女性だということで、私、女性でございますので、まずお見知りおきをよろしく。ということで、西部からも出ておりまして、島根を全体見ると大変長いんですが、西部もいいところがいっぱいあるんです。隠岐ももちろんですが、そのいいところが日に当たってないし、地域のほうがいいものが見えてないっていうところもありますので、それを代弁しながら頑張りたいと思います。よろしくをお願いいたします。（拍手）

○事務局 ありがとうございます。

それでは、審議会規則第4条第1項に基づきまして、会長に議事の進行をお願いいたします。会長、よろしくお祈いします。

○会長 ありがとうございます。

それでは、次第に従いまして進めてまいります。

初めに、丸山知事から本審議会に対しまして諮問がございます。

よろしくお祈いします。

○丸山知事 島根県総合開発審議会会長、服部泰直様。島根県知事、丸山達也。島根創生計画について、諮問。人口減少に打ち勝ち、笑顔で暮らせる島根をつくるため、施策運営の総合的、基本的な指針となる島根創生計画の策定について、貴会の調査、審議を求めます。よろしくお祈いいたします。

○会長 承りました。

それでは続きまして、丸山知事から本審議会に対して諮問をいただきました島根創生計画について、事務局より説明を受けます。意見交換の時間を十分にとれるよう事務局からの説明は、ポイントを押さえてお祈いいたしたいと思います。

それでは、説明お祈いいたします。

○事務局 （資料について説明）

○会長 どうもありがとうございました。

それでは、これから意見交換に移りたいと思います。先ほど事務局から説明がございました島根県の概要、また島根創生計画（案）の骨子などについて、委員の皆様の幅広い御発言をお祈いしたいと思います。

なお、この会議の時間、15時半までということでございます。また、ここにお越しの皆様方、それぞれお忙しい方でございますので、御意見につきましては要領よくお祈いで

できれば助かります。それで、きょうは第1回の会議ですので、できれば全員の方から御発言をいただきたいというふうに思っております。時間を考えますと大体1人3分ぐらいかなと思っておりますので、よろしく願いいたします。もし、御都合等で時間前に退席される予定の方等ございましたら先に御発言いただければと思いますけど。

○委員 まず、丸山知事には、就任早々この審議会を開かれまして、今後の県政運営に対して大変期待をしております。

その上で、ちょっと意見を申し述べさせていただきますが、この島根県の概況という資料の位置、これは島根県の概況の単なる説明なのか、過去の計画が、何がうまくいった何がうまくいかなかった、その理由は何なのかと。そういう分析に基づいて、うまくいったところはもっと伸ばそうとか、だめだったところは原因を探って何かやる、こういう方策があるんじゃないかというふうな話にならないと、この間までこれしとってよかったねみたいな話で、今後また3年間、皆さん、さっきの話聞いてますと、ほとんど県庁の中の建制順に、各部、局、課の施策を情緒的に網羅されてまとめられただけというふうに聞こえたんですけど、政策企画局で丸山知事が当時おられたときから、今日、新しい知事をお迎えし、過去の12間をどう総括し、今後新しいところにどう大胆に取り組んでいかれるかっていうふうなものを期待しておるんですけど、なかなかそういうところまでは時間的に難しいのでこうしろっていうふうなことなんでしょうか。

○事務局 これまでの総括はどうだったのかというまずお話であります。詳細はまたこれから分析をいたしまして、そういったような状況はまたお示しする必要があろうかと思えます。今現時点で、これまでの成果でありますと、先ほどごらんいただきました大きな基本的な合計特殊出生率、それから社会増減、こういったようなものは大きな目標として捉えて設定しておりましたが、これは達成してきているという状況でありますけども、個々内容を見ますとさまざま要因もありますので、そこはよく分析をしていく必要があるんだと思っております。

それから、1編から3編までの今の案骨子につきましては、ただ単に建制順的に取りまとめられただけなんではないかというお話でありました。基本的に必要な行政の施策レベルということで記載はしておりますけども、例えば今後の特徴とか、そういったようなことは少し、今回は案の骨子ということでありますけども、これからもう少しわかるような形では出していくようなことが必要ではないかと思えますし、そういった作業を今しているところではありますが、今回、仮にトピック的なものがあるかといえば、人づくりという

ことで今取り組みをしているところでもあります。例えば今、先ほど見ていただきました、若者が15歳から24歳までが大体1,000人程度県外に出ているという状況でありまして、こういったような若者を県内に定着させるための仕組みづくりということで、部局横断でプロジェクトも今立ち上げて検討しているところでもあります。それから、女性活躍の関係につきましても対策本部を、女性活躍のための推進の本部を設置しまして、こういったような取り組みも具体的な施策の検討も今進めてきているところでありまして、こういったような次の戦略で特徴となるようなものは、また詳細なところが、計画が、素案ができる段階ではもう少しお示しできるのではないかなと思っています。

○会長 ありがとうございます。

皆さん、御質問があるかと思いますが、御質問されて、また県の方答えていくと、もうそれだけで時間かかってしまいますので、本日は御意見をまず伺う、また御質問があれば御質問をしていただいて、その回答につきましては、後日県のほうから、また次回であるか、どこかのところでまた回答させていただくという形にしたいと思います。ですので、申しわけありませんけれども3分以内で御自身の御意見、御質問等をまず言っていただくと。もしお時間が残りましたら、その後少し県との意見交換もさせていただければと考えていますので、よろしく願いいたします。

そのほか、どなたか御予定のある方はございますでしょうか。

なければ、この委員の名簿の順に従いまして、各委員から意見を頂戴したいと思います。

○丸山知事 議長、済みません。私のコメントから。KPI、この島根県の現況でいろいろ後ろにつけている、数字が達成できてきてないというミクロの指標はありますけども、やはり一番大事なことは、人口が、済みません、想定よりもふえてるかどうかということ。2つ、出生率なり出生数、出生の要素がトレンドとして上がってるのかどうか、社会減が減ってる傾向にあるのかどうかという意味でいきますと、済みません、会社と違って、決算って形で営業利益、経常利益って出ないものですからもどかしいところありますが、トレンドとしては、その当時、つくった当時の流れを少しずつ上に切り上げていこうという政策の方向性としては、滑り出しとして順調とは言いませんけども、こちらの骨子の資料の2ページの現状のまま推移した場合よりも、切り上げていこうというトレンドには乗っているという意味においては、政策の方向性はトータルとしては間違っていないというふうに思っているのですが、個別にどの事業がきいたかということの効果分析もなかなか難しいものですから、そういうものの中で、より強めていくところ、また新しく追加し

なきゃいけないところがあるはずだ、あるだろうということで、そういうことをこれから具体的に追加をしていきたいというふうに思ってるところでございます。

○会長 どうも、知事、補足説明ありがとうございます。

それでは、御意見をお願いいたします。

○委員 私、実は就任をいたしまして3日目でございます、まだ全くよくわからないという状況でございます。そういう中で、時間もないようですので2点。

1つは、県の仕事を見ておったときに、職員が多過ぎるんじゃないかという話なんです。さっきも、おとどしだったかな、ブドウのトップセールスを、名古屋のほうから来ました。でも、職員が何十人ついてくるわけですね。大名行列。非常に皆さん方から手間ばっかたられて、何のために来とるんかいと、知事の機嫌とりに来てるんじゃないかという話ございました。一つの例ですよ。我々民間は少ない最少人数でいかに効率よく仕事をやるかという視点でやってますので、もう一回、じゃあ島根県の職員の数がほかと比べてどうなのか、そういう比べる指標があれば、この際、私、見せていただきたい。そういうことによってできるだけ費用を捻出していただいて、ほかの事業に向けていただきたいということなんです。じゃあ、農業どうするかとかいうことで、この前、包括協定を結ばせていただきました。100億円をここ何年で伸ばそうということで包括協定を結ばせていただきましたが、農業の場合、片一方でやめる人がどんどん出てますので、100億をふやすというのは大変なことなんです。よっぽど思い切った政策をとらないと難しいと思います。そこで、今何をやってるかというのは、若い人向けの、若い人は金もない、土地もない、何があるか、やる気ということで、リース事業でハウスをつくったり団地をつくって呼び込んでるんです、Iターン、Uターン。だから、そういうことをやることによって農業も盛んになる、人口もふえるというようなことを考えていかないと、なかなか10年、20年先の農業は見込めないということでございますので、ちょっととんちんかんことを言ってるかもしれませんが、今後ひとつ期待をしておりますので、よろしく願います。

○委員 町村会を代表して出ております。今回、新しい知事が人口減少に打ちかつということで、大変私も心強く思ってるわけですが、今回の審議会の委員の名簿を見ても23人中12人が女性ということで、これからいろんな御意見があるんだろうと思いますけども、やはり知事がおっしゃってるように、女性が元気な島根県ということを私は非常に強く支持をしたいと思います。人口減少ではあるんですけども、どうやって元気な島根県に

するかということではありますが、私は、どこが弱いかっていうよりも、島根県の強みをどう生かしていくかということのほうが私は手っ取り早いのかなと思ってます。人口減少を考える場合に、やはり若い女性、20代、30代の若い女性をいかに島根県に呼び込んで、あるいは住んでもらって活躍してもらおうかということに尽きるんだらうと思います。そういう意味では、邑南町の場合は20代、30代の女性がどれだけ来てるかという分析をいろいろしているんですけども、そうした細かい分析も今後はしていただいて、ぜひそういった女性の視点を幅広く政策に広げていただきたい。例えば、女性の強みについても、26ページにありますように女性の就業人口っていうのがありますけども、育児をしている女性の有業者率が全国で1位なんですよね。これはどういうところでこうなってるのかというところをもっともっと深掘りをしていただいて、やはり魅力のある島根県っていうのは何だっということ全国に呼びかけてもらえば、もっともっと女性の方がいらっしゃるんじゃないかなと思っています。

それが1点と、もう一つは、これも今回の創生計画に出てますけども、やっぱりこれは長い話ではありますが、ふるさと教育というのにもとにか徹底的にやるってことですよね。これで成功してるのは福井県でございます、福井県は幸せ度ナンバーワンの県です。その肝は、やっぱり教育に力を入れてる。そして、福井県で育った子供は地元の高校を出て、地元の大学に入って、そして地元の産業へついていく。こういう好循環があるわけですよね。そうしたものをやっぱり島根県も学ぶべきだろうと思います。口では幼保小中高大連携と言いますが、島根県の場合は、もっと細かく見てみると、本当に連携ができてるのかどうか、そこは大いにそれぞれの分野の方が反省しなくてはいけないと思っています。それと同時に、この問題は産業政策と絡むわけですから、今の農業問題も含めて島根県の産業をどう育てていくかということも当然考えていかなきゃいけないと思っています。

以上2点、町村会として申し上げたいと思います。

○会長 ありがとうございます。

○委員 私は500人余りの地域の公民館の館長をしております。きょう本当にここへ来たとき、ちょっと場違いなところへ来たかなと思ってはいるんですけども、皆さんとの意見交換をしっかりと胸にとめて帰りたいと思っております。

この創生計画の中をいろいろ、私たちの目標がなかなか達成できないことがいっぱい書いてあるなど思いながら見させていただいたところです。今、石橋町長さんおっしゃいま

した、女性が元気なまちづくり、強みをどう生かしていくか。私はマイナスの面を見るのではなくて、やはり自分たちはどう生きていくか、住んでいる人間がどうやったら幸せに暮らせるか、そういう視点で物を考えていきたいと思っております。

それで、この資料の中を今日までに読ませていただく中で、今までは何とも疑問にも思っていなかったことが非常に1つほど疑問が出てきたんです。50年前は、社会教育の分野では女性が輝けば地域が輝くと言われて本当に久しいんですけども、この中で、女性、高齢者、障害者の皆さん、そういう人に頑張れという言葉は出てきているけれども、壮年期の男性、失礼が当たるかもしれませんが、壮年期の男性、地域において、やはり女性と もっと手を取り合ってしっかりといろいろなことを進めていかねばならない。後方支援を十分していただいているところもあるんですが、やはりもっと一緒に考えていかなければいけない。それを文章化したほうが、よりわかるのではないかなという気持ちが非常にしております。今回のこの体系のところには、非常にわかりやすい言葉で書いてあるところは非常によくなって、先般山陰中央新報の黒川慎司さんの記事を見たときに、私たちには非常にわかりやすい言葉が使って年金のことがお話ししてあって、これはいいな、ぜひ黒川さんと呼んで、みんなで共有したい、そういうふうな気持ちを持ったところです。ですから、何が言いたいかといいますと、本当にわかりやすい言葉で、県民一人一人の気持ちに響いてくるような計画ができ上がればいいと考えております。以上です。

○会長 ありがとうございます。

○委員 常日ごろ女性の活躍する場、そして安心して子育てをしながら働ける、そういういろいろな部分を行政としてお心遣いしていただきますことに、まずもってお礼を申し上げます。

ただ一つ、私が感じるどころ、これはあくまでも女性、母親の立場でのいろいろな取り組みがされているわけですが、実際、その子供たちのことをどこまで配慮されているかなど。例えば、朝早くからお母さんが出勤しないといけない、そうすると保育所に早朝から送り込む、そして残業の場合は遅くまで預かってもらう。そうすると、朝食、お昼、夕食、全てそういう施設でもって子供たちは食べるような形になるのではないかと思います。そうしますと、家庭って一体何だろう、家族の団らんって一体どうなってるんだろう、そういうふうに最近すごく感じるようになりました。

そして、もう一つが、去年たまたまテレビをかけておりましたら、これ、たしか山口のほうの放送局だったと思うんですが、あるボランティアの方があるおうちにちょうど夕飯

どきに訪ねましたら、子供が1人で夕食を食べていたそうです。再度またそこへ訪ねたら、同じ1人で食事をしていました。あ、これはいけないということで、自分の家を提供して、ほかの、多分そういう子がいるのではないかと声かけをして、そこで預かって、食費として300円でしたか、いただいて、そういう子供たちに夕飯を与えてるっていうのがテレビでやっておりました。映像には10人ぐらいの子供たちが本当にここにこした顔をして食事をしているところが映っておりましたが、そこに利用している子供のお母様がインタビューを受けておりました。それには、まずありがたいと、きょうは少し早く仕事が終わったので私も子供と一緒にここに食事に来ました。そのときは何げなく私も見ておりましたが、後で、えっ、これ、ちょっとおかしいのではないか、せっかく早く帰れたのならば、どうしてお母さんは自分で手づくりして自分の家で子供と一緒に夕飯が食べれないのかな。今ちなみに、おふくろの味というのはコンビニの味と皆言っております。本当に家庭があって家庭がないような、そういう感じをすっごく、だから、余りにもいろいろ恵まれていると、かえってそれに甘えて母親としての努力をだんだんしていかなくなるのではないかという、私がこの年になったからそういうことが感じられるようになったのかもわかりませんが。

そこで1つ、私、知事をお願いというか、検討していただきたいのが、本当に若い御夫婦で、御主人のお給料だけではやりくりができないのでどうしても共稼ぎをしなくてはならない、そういう方たちには、子供たちが本当に両親の愛情を必要とするまではお勤めには行かずに、それなりの行政からの補助というか、そうしてしっかりと両親の愛情を子供に植えつけてやる、そういう何か対策をしていただければと思います。そして、やはり若い方でも自分が働かないと生活ができないからということでやむを得ず共稼ぎをしてる、そうするとやはり子供が欲しくても子供を産めない状態、生活がやれないから。でも、そういうことが改善されれば子供も1人、2人とふえていくのではないかと、そうすると少子化の問題も多少なり改善されていくのではないかなと私は思っておりますが、御検討のほどよろしく願いをいたします。

○会長 ありがとうございます。

○委員 浜田から参りました。生まれも育ちも東京でしたが、縁あって島根出身の夫と結婚しました。2004年から地域で子供の居場所などをしながら、主に社会教育などにも携わっておりますが、もともとの職業は訪問看護とか在宅ケアの仕事をしておりました。

この国の文章も県の文章も一貫して、何か人口減少のために女性には子供を産みましょ

うというイメージがどうしても読んでとれてしまう印象を持ちました。島根では、前倒しで合計特殊出生率2.07を目指して産みましようっていう、政策としてはそれはわかるのですけれども、そもそも人はなぜ子供を産むのか、いろんな条件を改善すれば本当に産むのだろうか。島根では県外の高校、大学などに子どもを行かせることを考えると、とても共働きでないとやっていけない現実の中で、それでも多くの子供を産んでるっていうことは、島根の強みはどこかっていうことを考えてみる必要があるかなというふうに思っています。

まず、子供がいる社会って幸せな社会だよねっていう、緩やかな人とのつながりっていうものがあるのではないかな。10年以上前ですけど、内閣府の調査でソーシャルキャピタル、つながりの一番あった県は当時島根県で、一番なかったのはお金がいっぱいある東京でした。島根県でなぜ子供が多く生まれるのかをもう少し分析をし、その土壌をもっと伸ばしていくっていうことがかなというふうに見ていました。

それから、女性の活躍のために子供の放課後児童クラブ、待機児童減らしましょうっていう国の戦略でありますけれども、子供にしてみれば、豊かな幸せな放課後、休日を過ごすための戦略はどこにあるんですかっていうふうに、私は子供の立場からいうと思います。社会のために個人があるのではなくて、一人一人の幸せの集積が島根の幸せにつながることを考えると、本当に幸せな子供時代を島根県で過ごしたと言える地域をつくりたいというふうに思いました。

また、Society 5.0は、何が起こるかわからない時代であり、今必要な知識や学びだけではなくて、例えば種でいえば、遺伝子の多様性のある、いろんなことがあっても淘汰されない、いろんな多様性のある原種を育て残す重要性があるっていう育種学的な発想がありますけれども、人間も特に乳幼児期、本当にしっかり遊んで心も体もいろんなことに対応できる豊かな成長、発達を保障できる環境が大切です。子供を取り巻く豊かな環境づくり、そこにかかわる大人の理解が重要です。子供の成長、発達に関する脳科学もどんどん進んでいます。そういうところをしっかりと理解した幼児教育、それが最終的に魅力ある高校とか、いろんなものにつながるといいますので、そのあたり含めて、決して社会のために個人があるのではなくて、一人一人の幸せっていうことが伝わる、そういう県政にさせていただきたいなというふうに強く思っております。以上です。

○会長 ありがとうございます。

○委員 日ごろは、森林組合さんとか林業事業体の皆さんと一緒に、森林の整備や木材の

生産、また、市場での木材の販売といったことを行っております。

そういった中であって、林業についてですけれども、全国的にここ数年、国産材、日本の木材の生産量が非常に伸びておりまして、県内の、島根県の木材の生産も全国平均より上回る状況でふえております。これも県のほうの循環型林業の推進ということで、そういった施策を積極的に推進していただいた結果だと思っております。木材を生産すれば、またそこに木を植えるという仕事もできますので、こういった林業の振興というのは中山間地域の雇用の場の創出ということで、非常に効果があるなと思っております。

そういった中で、この骨子案を見させていただいて、最初の人口ビジョンのところでございますけれども、将来的にいろいろな施策を講じて人口を安定化させるということで、安定化させたとしても将来的には40万人ちょっとということで、現状よりはだいぶ人口が減ったところで安定させるということになるとすれば、こういった、例えば林業のところだと考えると、これから振興していくためには、いかに少ない人数で今の仕事をやっていくかみたいなことが重要になってくるんじゃないかと思っております。農林水産業のところでも、そういった面で収益性を高めるという言葉が農、林、水、全てで出てきてますけれども、生半可なちょっとした合理化みたいなことではなかなかこれから先は実現していかないんじゃないかなと思っております。先ほど国のほうの資料の説明の中で、Society 5.0の説明がありましたけれども、林業の世界でも無人化のような技術革新みたいなことができるんじゃないかと期待しています。実際にスマート林業というようなことも出ておりますので、そういったもう抜本的な、少ない人数で仕事ができれば、その分、収益性も、一人一人の収入もふえていきますので、そういった思い切ったような技術の開発みたいなことも必要かなと思っております。そういったことに取り組んでいただければと思います。

それから、林業とは関係ないんですけれども、今までの委員さんの発言を伺いまして、私も、やっぱり人口対策を行っていくためには、骨子のところの6ページの結婚への支援、妊娠・出産・子育てへの支援ですね、子育て世帯の皆さんへの支援策が必要だなと思っております。こういった分野へもう思い切って支援していくようなこともあってもいいんじゃないかなと思っております。以上でございます。

○会長 ありがとうございます。

○委員 私は福岡県出身なんですけれども、島根大学に進学したのをきっかけにこちらに住むことになりました。縁がありましてこちらで嫁ぎまして、主人の父が建設業を営んでおりまして、その後、代がわりをしまして、今、2代目となっております。私もふだんは

会社の中で経理ですとか、採用とか人事など、フルタイムで働いておりました、主人の両親と同居しているということもありまして、3人子供を育てながら働いておりますけれども、やはり私のように県外からこちらに嫁いでおられる女性っていうのもたくさんおられます。

人口というテーマが大きくあるのかなと思いましたが、そちらについて私の意見を述べさせていただきますと、進学とか就職とか結婚というライフイベントで人口っていうのが動くのかなというふうに思います。大学を初めとした学校とか、あとは県内の中小企業が魅力化に努めていかないといけないなと思っています。行きたい学校であるとか働きたい会社というのをつくるということに取り組むんですけれども、実際にもう既に取り組んでいる学校や企業はたくさんあると思います。それがなかなか、何ていうんですかね、見せていないというか、知られることがないというのが残念だなというふうに思っています。やはりこれまでPRという面がちょっと弱かったのかなというふうに思いますので、今後は県外とか全国に向けて、そういった学校や企業があるということをPRしていくということが、また人口が県外から島根県のほうに流れるというきっかけになるのではないかなと思っております。以上です。

○会長 ありがとうございます。

○委員 雲南市木次町のほうでカフェや民泊などを営みながら暮らしております。8年前に東京からIターンで参りまして、地域おこし協力隊を経て、農地つき空き家を購入しての定住というふうになっております。

現在、地域おこし協力隊のほうで島根県内のネットワークづくりをしておりまして、一般社団法人しまね協力隊ネットワークの代表をしておりますのと、あと、総務省の地域おこし協力隊のサポートデスクの相談員もさせていただいております、協力隊制度のほうではいろいろとかかわってきているところです。

今回、このような場にお呼びいただいて非常に光栄なんですけれども、私のほうで感じたことを幾つかお話しさせていただくと、まず、出生率の高さっていうのがすごいなと思って、その理由を本当に知りたいなと思います。自分自身、もう40も半ばになって子供がいなんですけれども、実感として、若いときに子供を産めなかったっていうような実感があります。やっぱりロスジェネレーションという世代になってきますので、なかなか自分の仕事の状況などから産むっていうことをすごく怖いと思った人間だったので、非常にそういったことっていうのが下の世代に続かないようになっていけたらいいなという

のは思います。

そして、あと、人口減少のことなんですけれども、人口減少というのが非常に難しい問題だと思いますし、大変なことがいっぱいあると思うんですけれども、果たして本当に全て悪なのかというところを疑問に思うときがあります。上の世代の方で非常に人数の多い世代の方なんかは、やっぱり個が余り大事にされなかったような印象を受けています。人数が少ないことによって一人一人がとても大事にされているような、そういういい面もあるのかなと思っています。今後、やっぱり出生率上がっていくように働きかけしていくことというのはすごく大切なんですけれども、一旦は人口減少社会っていうのを受け入れて、人口減少の時代を生きるという段階が挟まっているかと思っています。その時代をどう生きるのか、その時代をいかに幸せに生きるのかっていうことも今後につながってくるのではないかと思います。

特に、今後、団塊の世代の方々の引退時期っていうのがやってくると思います。地域おこし協力隊として地域に入っておりますと、上の世代の方々がふだんの暮らしの営みで草を刈ったりとか、田んぼのことだったりとか、本当に当たり前にされているものによって美しい環境、それから、おいしい食というような、島根の魅力っていうのがつくられているんだなというのを実感しております。そういう方たちが引退されていったときに、この部分どうやっていったらいいのか、人数が少なくなってくる私たちの世代はどうやったらこの部分を補っていけるのかということを思っております。まだ答えはないんですけれども、そういったこともこういったところで皆さんとお話しできたらうれしいです。よろしくお願いします。

○会長 ありがとうございます。

○委員 私は島根県中小企業団体中央会の会長をしております。中央会は、中小企業の組合を支援するための団体で、組合員・会員は中小企業のみで占められています。その中で、私は、今、5年後、10年後にどういう姿が浮かんでくるということから出発をしております。まず、今現在、廃業、倒産が年々増加をしておりますし、恐らくさらに増えていくだろう、下手をすると5年後に3分1ぐらいの中小企業がなくなってしまうのではないかと、そんな危機感を持っています。

では、これをどうしたらいいかという問題があります。実は、約70%の企業に後継者がいません。子供はいるが他所で就職をしているため、そのまま呼び戻さないということで、いわゆる後継者がいないという問題があります。どうしたらその子供たちが帰ってき

て、我々の仕事を継がせていくことが出来るかが、一つの大きな課題になります。

今、国会では年金の2,000万円問題等がありますが、基本的にはやはり、都会が65歳の定年ならば、島根県は70歳の定年にする。これから70歳、75歳を定年にして、働けるような職場を残す。ということが、まず第一に必要なと思います。それは、金融機関、行政あるいは経済団体が一緒になって、どうこれをこなしていくかということです。

広島市信用組合の山本さんという理事長がいらっしゃいます。普通は信用組合というと、その地域の本当に小さな企業を多く相手にしているため、経営が厳しいと思いますが、その信用組合では預金と融資のみで利益を出して運営をしておられます。そして今、島根中央信用金庫の福間理事長がそれと同じようにやっておられます。やはり、小さな会社を育て、それで利益を生み出しています。こういう金融のあり方とか、そういう問題を考え、中小企業を育てながらやれば、あり方も変わってくるのではないかと考えます。そういう支援ができる体制をまず作るということ、これをまず、私はお願いしたいです。

それから、次に、石川さんから農業の問題がありましたが、私もクボタの関係があるため、農業のことはよく分かりますが、今はもうどこも高齢化が進んでいるため、基本的に、田舎の農業は若者が入ってこないと救えません。そうするとどういうことになるか。今、メーカー各社ではスマート農業が進んでいます。今まで父ちゃん母ちゃんですら反しかやってなかったのを3町、4町やる体制をつくるのが基本になります。そのためには圃場整備をしたり、あるいは色々な思い切った冒険をしたりしていかないと、そういう体制は構築できませんが、そうすることで、総体的なコストは下がります。私は、将来、米が一番の日本の輸出産業になるのではないかと考えています。要するに、それをどうつくり上げるかということが一つの大きな課題だろうと、これも行政、金融、経済団体が一緒になって進めていく課題であると思います。

島根県では、大邑地区などで国営開拓パイロット事業がありました。そこへ農家が入植し、約50年分の金を使います。50年分の金を借りて農業をやっていきます。農業というのは、やはりそういう長い息で考えないとできないところがあり、そういう考え方に立って、いわゆる若者を島根県の農業に取り込んでくる体制をどうつくるかということが一つの課題になります。

それから、もう一つは、情報の共有という問題があります。私は今、大田のケーブルテレビの社長をやっていますが、この双方向のケーブルテレビを使って、どういう社会をつ

くっていくかということを考えています。独居老人対策は、双方向の設備を使って進めることができます。それから、将来は在宅診療、や買物弱者への対応など、島根県には大体CATVがあるため、これをどう使っていくかがこれからの大きな鍵となります。これから、第5世代移動通信システム（5G）を活用することで、遠隔診療や遠隔手術などが可能となるでしょう。になります。これからは、社会の経済構造というか、社会の構造を変えていくという体制をどうつくるかということが大事なことだろうと思います。

それから今、都会では、いわゆる老人ホーム等が人手不足により続々と潰れています。この波はやがて地方にも来るでしょう。恐らくは、5年間で37万人の外国人を入れて対応していく考えでしょうが、恐らく島根県でも残る老人ホームと、潰れる老人ホームに分かれてくると思います。そうすると男性女性に限らず家族の誰かが家庭で両親の介護をしなくてはならない。そうすると、やはりどうしてもテレワークの利用や、今までの8時間労働を5時間で済ますとか、そういう体制を地方がつくっていかななくてはならない。それをどういうふう支援をしていって、各企業がそういう体制をつくり上げるかが問題になります。これも行政、金融機関、経済団体が一緒になってやはり作っていかななくてはできないだろうと思います。

そういうことで、恐らく社会構造とか経済構造をこれから先、5年間でどこまで転換をして、対応できるかということが必要でしょう。そのためにはやはり企業経営者はもちろん、あるいは皆さんの意識改革をどうするかということが大きなポイントだろうと思いますし、ぜひこの総合戦略によって、その辺に踏み込んだ、いわゆる改革をやっていただきたいというふうに思います。以上です。

○会長 ありがとうございます。

○委員 京見屋分店というお店を主人と今営んでおります。創業が70年弱になるお店の私たちは3代目になるわけですけれども、いろいろな時代の流れとか、大型店舗の台頭、ネットの急速な普及などによって商売の形もいろいろに変えながらの今に至っておりますが、贈り物ですとか、そういったものを扱いつつ、あとは店舗の一部をちょっと改装して、コミュニティースペース的な活用ができるようにという方向で今やっております。Iターンの方、あるいは島に転勤で来られた方の奥様たち、ちょっと情報が欲しい方や、あと、つながりが欲しいというような方にそういう場所が提供できればいいなど、そう狙っていたわけではないんですけれども、自然な形でそうなっていったということで、商売のヒントがそこにもあるかなと思いつつ、今、そういう形でやっております。

ですが、私はずっと隠岐に暮らしていたわけではありませんが、27年前に、小学校の教員の第1赴任地というか、初任の地ということで隠岐に行けというふうに言われました。もうこれも青天のへきれきで、もう涙、涙で、フェリーの上で涙を拭きながら行った記憶がありますけれども、来てみれば非常に豊かな土地で、子供のかわいさと地域の魅力と島の自然の雄大さと、そういったものにあつという間につかまれてしまって、もうこの桜を3回見たら私は帰ると思い続けたあの桜がもう27回目かと、そう思いながらの春でした。

小学校の教員を19年やりましたけれども、その19年の間に本当に大きく変わっていったと思うのが子供たちの島への思いです。島根が力を入れてこられたふるさと教育の積み重ねが本当に今、島の中でも形として子供たちの声として返ってきているというのが実感です。私は8年前に教育現場離れましたけれども、その後もいろいろお声がけいただいて、高校さんとの連携ですとか、中学校さんの授業にかかわらせていただいたりとか、そういうことがあります。子供たちの感想を拾い上げたときに、僕は島に帰ると、島根に帰るというふうに話してくれる子供の数が、それがどれだけ現実のものとなっていくのかというのはちょっと厳しいものがあるにしても、そういう声がきちっと形として返ってくるというのは、親としても、教育者のついでというか、教育に携わった者としても、とてもうれしいものです。

こちらの計画の中にありましたけれども、人口減少の対策の一つに島根を愛する人づくりというのは、もう私は本当にそれは大きな柱であるなというふうに思いながら聞かせていただきました。やっぱりふるさとへの思いがある子供たちをどう育てるかというところと、それから、その子供たちをどう島根に戻すか、つかんでおくかという。先ほど福井県の実践のお話もありましたけど、そこは島根の今後の大きなヒントかなというふうに思っています。

ただ、実情、私が暮らす島後のほうに置きかえてみたときに、大変残念ですけれども、今年度は約3割の子供たちが島外の進学を希望しました。例年1割程度だったんですけれども、3割、これはとても大きいです。子供たちが夢を追っていくという、それはそういう姿であるんだなとは思いつつ、島に視点を絞ったときに3割の子供が島外を選んだというところで、やっぱり複雑な思いを抱えています。その地域から子供が減るということは、高校教育の魅力化ですとか、そういった面でもいろいろと難しくなっていく面もあると。やっぱり学校が縮小していく傾向にあると地域の疲弊も招く、そうすると、島根県全体の魅力を底上げしていくには地域地域の格差を埋めていくということも必要かなと、

島根の端っこに暮らしつつ、思うことはよくあります。

島根県は人口減少ですとか、過疎ですとか、そういった意味では全国のトップランナーだというふうによく言われますけれども、そういった視点でいくと、隠岐の島はまさにその本当に最先端いっていると。そうなったときにいろいろ厳しい課題はいっぱいあるんですけども、でも、ちょっと考えてみると、海士町の教育の魅力化ですとか、知夫の驚異的な人口増、全国で9位でしたっけ。何か本当に600人が640人になったという、数としてはわずかですけど、率として考えるとかなり頑張っている、そういった取り組み、小さなエリアでの隠岐での取り組みが何か今後の島根の育成にヒントになればいいなというふうに思いつつ、お話を聞かせていただいております。

済みません、失礼します。

○会長 ありがとうございます。

○委員 私は保育所に勤めております。子供たち毎日元気に通ってきます。でも、その子供たちが元気に通ってくる向こう側には、保護者が一生懸命育てていて保育所に送り出してくれる、その親支援も、気持ちの上では大きなものを占めております。

保育所を運営する上で、うちの園舎はもう全然新しくなく、今回、改築をしたいと思っております。建築単価が10年前とは随分変わっております、あれだけ国のほうで子ども・子育て支援のことを言っているにもかかわらず、国の中央のほうの待機児童のことはとても大きく話される場所ではありますが、こちらの地方のほうの小さなところ、小さな園、小さな場所での流れというのは、とても厳しいものがあるなど実感させていただいておりますが、子供たちの命を守るところ、安心安全、これだけ震災、災害が続きますと、やはり安心した生活基盤というものはつくりたいと思っておりますので、頑張っていこうと思っておりますので、よろしく願いいたします。

そんな中で、保育所の慢性的な保育士不足というのは、小さな町でもなかなか免れず、正規採用で職員を採用したいところはとてもあるんですが、子供の数がなかなか安定しないといいますか、出生数の少ない年もあれば多い年もあるというようなところから、なかなか保育士の正規雇用が難しい、でも、保育士は子供の安全を守るためには必要だというようなところで、保育士を採用するとき、私は吉賀町なので西部なんですけど、西部には保育士の養成校がないんです。東部は何校もあるんですが、西部には保育士の養成校がないところから、なかなか地元に戻って保育士の職につくというのが難しいところもあります。そこら辺もちょっと悩みの種ではあります。

それから、地域に目をやりますと、この島根を創る人をふやすというところの中の地域を担う人づくりの中に、公民館という文言がありました。私たちの地域でも公民館を核としての地域づくりは、一生懸命頑張っているところではあるんですが、じゃあ、公民館の職員さんの処遇を考えたときに、そこで働かれる方の生活というようなことを考えると、やはりなかなか、「地域を担う人づくりの中の公民館」っていうところはもう少し課題があるのではないかなと思っています。

それから、吉賀町のことをちょっとPRさせていただくと、サクラマスプロジェクトというプロジェクトを立ち上げて、今、8年ぐらいになります。そのサクラマスプロジェクトというのは、吉賀町を担う人材の育成、将来、「吉賀町に帰ってくる子供」を、あえてプロジェクトとして立ち上げております。その成果としては、10年前には何人子供たちが地域に帰ってきて、今がじゃあ何人なのかという数値は、まだはっきりしたものは出てきませんが、子供たちの口から「吉賀町に帰ってくる」という言葉が聞けるようになりました。あえて具体的に「吉賀町に帰ってほしいんだ」ということを子供たちに話すこと、それから、子供たちが「吉賀町に帰ってきたい」という施策を町の中で具体的に進めていくこと、それが成果につながっているかなと思います。

いろんな会議に出ましても、いろんな話し合いにしましても、机上の空論的なことを言うのはとても簡単なんですけど、じゃあ、その目標に向かって何をするのか、「具体的に」というようなところがやはり地域の中でも、少子化のことに關しましても、女性の社会進出におきましても、出てくるかなと思います。

私がここに来るまでに、空き家もとてもたくさんあります。あの空き家が住めるようになって、この島根で住みたいと思っている人が簡単に住居を見つけることができる、住むことができるようなことになれば、もっともっとこのきれいな島根県に帰ってこれる、入ってこられる方はおられるんじゃないかなと思っています。

○会長 ありがとうございます。

○委員 感想と意見を少し述べさせていただきたいと思っています。

まず、この島根の総合計画でございますが、ちょうど見直しの時期に来てるということもあるようでございますし、新しい丸山知事が誕生されまして、県職員の皆さん方はスタートダッシュで大変だというふうに思っていますけども、時期が時期でございますので、知事も現場主義ということでありますので、しっかり頑張ってくださいと期待をしておるところでございます。

それで、働く者から見れば、そりゃ賃金が高いほうがいいですし、労働条件もいいほうがいいということで、雇用の場も含めて地方から都市に出るということは、これは必然的な状況があるのではないかというふうに思います。ただ、やっぱり島根の魅力、とりわけ、全て都市と一緒にになるわけではないですし、そこへ至るまでは長く時間がかかるというふうに思っています。なので、基本的には地元で働く喜びとは何ぞや、島根の魅力とは何ぞや、こういったことが、これは学生と家庭もそうなんですけども、保護者の皆さん方にやっぱりそれがしっかり伝わるようにしていくことが必要ではなかろうかなというふうに思っています。

きょうの資料にもございますけども、25ページですか、大学等への進学というところがございました。高校生で県内へ残る方が600人、大学は、県外から1,200人、高校生は県外には2,500人出るという状況があります。やっぱりここが肝だというふうに率直に思っておりまして、教育現場と就労、県内就職、やっぱりこの結びつきをもっともって深めていく必要があるのではないか、そのように思っておりますし、ある意味、地元の大学から県内に就職される方、こういったところもやっぱりどンドンどンドンふやしていく必要がある、そのように感じております。

確かに島根は、全国レベルでいうとそんなに賃金は高くないわけでありましてけども、とはいっても、やっぱり島根のよさっていいですか、地域の助け合い、あるいは人と人のつながり、家族もまだ2世代、3世代あるかもしれません。そういったつながりがやっぱり非常に重要だと、大切な要素だろうというふうに思っていますし、そのよさをやっぱり打ち出すことが必要ではなかろうかなというふうには感じてます。なので、もう少し教育と就労という関係で少し切り込んでいただければありがたいかなというふうに思っていますし、もう一つは、雇用の場という意味でいうと、やっぱり島根はまだ雇用の場が少ないというふうに感じておりますし、都市と競うばかりではないと思いますし、やっぱり島根は島根のいい会社がたくさんあるというふうに認識をしています。そういったPRや雇用の場を広げていく、この取り組みをぜひお願いを申し上げたいというふうに思っています。いい会社があれば、その社員としてもコミュニケーションもとれますし、しっかりネットワークもつくれるだろうというふうに思っています。

最後、感想でございますけど、こういった計画書はおのずと、行政がつくられるわけですから総花的にやっぱりならざるを得ないというふうに感じておりますけども、ある程度どれも重要なことだというふうに思っています。ただ、とりわけ力を入れるところについ

てはポイント出しをされて、具体的なことについても、具体的な行動といたしますか、取り組みを起こしていただくようお願いを申し上げて、私の発言とします。以上です。

○会長 ありがとうございます。

○委員 島根県看護協会という職能団体で会長をしています。私どもは今、就業看護職の約半分ぐらいの約6,000人が会員となって、活動しています。その中のナースセンターで無料職業相談、潜在看護職の掘り起こし、またそういった方々の教育などもしています。きょう配られた概要の29ページのところに、医師の充足数につきましてはこのような形で書かれていますけど、看護師におきましても、非常に充足している地域とそうでない地域がございます。特に西部のほうは人材確保に苦慮している状況がございます。

今、私どもの事業の中で助産師出向事業というのをやっています。助産師は産み育てるっていうようなところで直結した職種業になりますが、今年度は隠岐の島後の方で、助産師さんの若い世代が出産等で休みが重なったため、助産業務を助けるために、県立中央病院さんのほうから1年間出向しています。そういった長い期間もそうですけど、例えば山間部等の分娩件数が少ない施設では、なかなか助産師としてのスキルアップが行えないというような状況がございます。そういったときに、島根に就職したらそういうところでもある一定期間、分娩数が多いような機関に出向をしてスキルがアップできるよっていうようなことも推進しながら、出向事業5年になります。少しずつ山間とか僻地にも助産師が就職し、助産件数がそうそう多くないところでもお産ができるというような、成果が出始めてきました。今は、県の委託事業としてやらせてもらってますが、今後も継続していただきたいと思います。あわせて、先程申し上げた看護師確保につきましては、西部のほうは非常に少ないところがございます。看護職のほうでも出向の仕組みが助産師と同じようにできたらいいと思っています。「すこやかに暮らし支える」ところの、医療の確保というようなところで、提案させていただきたいと思います。

そして、もう一つは、今、出産数のことが出ています。看護職は女性が非常に多い職業です。私たちの看護協会はワーク・ライフ・バランス推進ということをして、もう10年近く前からやってきました。その中で、特に出産育児に係る色々な制度を活用するということが各病院等では進めてまいりまして、出産した後も制度がすごく活用しやすくなったって、出産後も継続して働く方が多くなりました。一方では、夜勤をしてくれる人が少なくなったり、大変なところもありますが、やっぱりそこには働く環境を整えることと、それを理解する職場がないと、子育てと働くことは成立しないのかなというふうに思っていま

す。

けさのテレビで産後に職場復帰した女性が、搾乳する時間がなかなかとれなくて乳腺炎が悪化した事例が放送されていました。搾乳時間のことを同僚の多くが男性、上司も男性の中ではなかなか言えないとか、あるいは設備環境も不十分でトイレで搾乳をするとか、そういった職場環境がありました。私たちは女性が多い職場だったので、それが当たり前の中で、きちっと時間も環境も確保できて、制度も活用できてたのかなと思いながら見ました。なので、やはり今後、女性活躍並びに出産数の状況を上昇させるっていう意味では、そういった環境のところはまだ現場では届いてないのが現状だと思いますので、職場環境改善に向けてさらに取り組みを強化していただきたいと思います。以上でございます。

○会長 ありがとうございます。

次は、ちょっと議長という立場ではなくて、ここにいる委員として簡単に意見を言わせていただきます。

一つは、先ほど委員のほうから出ました教育と就労との関係ということでございますけども、今、島根大学では、COC+ということで本学の学生さんと県内企業のマッチング等を含めた形で、県内への就職を進める取り組みを行っております。この事業が今年度で終了いたします。補助期間が終わりますので、また来年度からどうするかということについては、今、県のほうとも話しさせていただいておりますけども、これも引き続き地域のためと考えてございます。島根大学も継続するつもりでやっておりますので、県のほうでまた御協力をよろしくお願ひしたいということ。

それから、もう1点は、県内就職率を上げるためには、やはり県内の高校卒業生を島根大学、それから県立大学にいかに多く来ていただけるかということが大きなポイント。これ、一つは、県内入学率と県内への就職率はほぼ同数という数がございますので、やはりそのところは大切かなと。これにつきましても、県立大学さんとも協力して取り組んでおりますけども、教育委員会、また現場の高等学校の協力がぜひ必要でございます。またこのことにつきましても一緒に連携しながら取り組んでまいりたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

私のほうから、簡単ですが、以上とさせていただきます。

○委員 島根は人口がっていうんですがね、やっぱり人口がふえないとどうにもならんっていうのがあるんですね。もう西部を見てください、限界集落じゃなくって、消滅です。

ということになると、空き家と熊とイノシシの世界だということになると、じゃあ、島根はだめなのっていうと、それが違うんです。今、大学の先生、ここは国立大、島根には島根県立大学があるんです。これが今、松江にもあり、それから看護大学もあり、そして、総合いうんで浜田にもある。この浜田に大学ができた。大学をつくるっていったときに私も委員になっとったんです。前々知事が、人口が減る、いや、大学建ったらいろんな国の人、もうだめになった町に行ってみたら、もういろんな国の人、若者が、町にあふれてた、そういうふうにするために島根の西部にやっぱりつくらないと人口がっていうのを聞いて、我々は、よっしゃいってんで随分けんかをして、益田やら出雲だっておっしゃったのをつくっていただいた。

じゃあ、その学校を中心に何をやるかっていうと、浜田は山しかなかったもんですから、山の上にすばらしい大学ができたんです。それで、みんな住宅やら福祉会館ができたが、高齢になりますと、住民が山からおりて病院に行くとか、そういうことができなくなった。そうなってくると、私はいつも最近言ってるんですが、浜田の大学がサテライトで、浜田の銀座街の昔の、あのど真ん中にぱちっとね、サテライトの教室をつくってほしいと、そうすると、猫の子が通ってない町が、若者がふえてくると。そうしたら、お年寄りが、ほいじゃあ、若者がきょうは食事があれだから、コロッケつくったんで、じゃあっていう小さい店ができて、いろんなことができるんで、ぜひ大学のサテライトを町の中につくってほしなっていうことをずっと言い続けております。それと、それだけいいものがあるんです。あるんだけど、活用がないっていうこと。

それから、浜田の水産があるんです、農業もあります。けども、今は農福連携で私たちはやっています。けど、もう今、全国を見ますと、障害者と水産が一緒になった農水連携でワサビっていうか、いや、あれ何ていうんですかね、いろんな高級なものをつくって、それを人工的につくって、どんどん売ってるっていう、そういういろんな知恵を出すと、福祉を核にしたまちづくりをつくりたいというのが私の夢なんです。ですから、ぜひ、ふるさと教育をしっかりしてもらって。そして学校の先生が、いやいや、島根じゃない、おまえはこんなとこに勤めんでも、ほかの学校へって学校の進路の先生が言うっていうんでね、ぶん殴りに行きたいぐらいなんで。

ということになると、やはりふるさと教育をし、ぴかりと光る、これだけ人口は少なくても、自然が豊かですばらしいっていうの、これ、我々がやっぱり掘り起こして、次の人にしっかりと委ねていかんとだめなんじゃない。そしたら県外に大学が物すごい来て、大

学が、県ですからね、何十億のお金が、県民からの税金が行つとる。だったら、山のどこにいないでおりて、サテライトで、そして若者と住民のおばあちゃん、おじいちゃんも一緒になっていくと、子育てもうまくできます。そして、子供の居場所づくり、老人も含めた居場所、障害者が応援する居場所、いろんなことができるんで、ぜひ、障害者っていったら、言わんといけんというふうに、刺身のつまにちよいと書いてもうたらやれんのじゃ。やっぱり障害者が中心になって福祉のこまを回す、それをみんなと一緒に、老人も含めてコミュニティーでやっていく、それが国が言う我が事、人ごと、丸ごとですよ。それが一億総活躍の世界です。ですから、ぜひ、私は一生懸命これに命をかけておりますので、よろしくをお願いします。この会に期待しています。商工会の婦人部もお力をかしてもらえらるのね、みんなでやりましょう。島根はいいまちです。島根県、ピカーにしましょう。

○会長 ありがとうございます。

○委員 江津にあるNPOとして、人口減少の激しい地域でどうNPOが生まれたかというところも含めて紹介なんですけども、ちょうど8年前に、帰ってこれる島根をつくるというスローガンで団体の活動がスタートいたしました。そのときに起業支援という切り口と、あと、地域活性化、商店街活性化で取り組んだものなんですけども、結局行き着いたのが教育というところでした。今回、皆さんの発言でも、ふるさと教育ですとか、そこにかかわる人づくりというところは非常に重要かと思っております。

2つほど提案なんですけども、その人づくりにかかわる人材というのが本当に島根で育っているかというところなんです。学校と人をつなぐコーディネーターと呼ばれる人材ですとか、社会教育施設の公民館の職員ですとか、待遇的に十分かというところではありません。また、処遇面の改善や資質能力の向上を個人で行うには限界がありまして、コーディネーターが組織的に動けるような機関もこれから必要ではないかと考えています。

あと、もう一つ、これも皆さんの意見とかぶるんですけども、ふるさと教育の最終的な、15歳から18歳の高校の教育についてももう一步踏み込んでいただけたらと期待しております。特に高校を県外への人材流出装置にしない取り組みを推進するために、労働力確保の観点だけでなく、本当、皆さんがおっしゃるとおり、島根をよくしたいとか、島根で活躍したい、自分が担っていききたいんだっていう生徒や、こういった力を身につけたい、1次産業を支えたいとか新しい技術革新の勉強もしながら、きちんと島根の地域課題に向き合っていける人材を輩出できるような高校教育に向けて、より一層取り組んでいただきたいと思っております。

一NPOとしても、行政だけでこれを行うというよりは行政と連携しながら、学校やNPO同士の地域団体と一緒になっていきたいと思っております。本当にこの教育の取り組みがこれからの島根の一つの柱になっていくと期待しておりますので、引き続きよろしくお願いたします。

○会長 ありがとうございます。

○委員 島根県医師会で会長をしております。この医療と介護という問題は、どのような時代になっても、どのような地域でも、必ず必要な機能だというふうに認識をしております。特に、この資料にも出ておりますが、2025年、もうすぐです。この25年には年寄りの世代が一番ピークに達するという年なんですね。島根県では総体として人口は減っています。若者、子供も減っています。年寄りも減っています。ただ、75歳以上の年寄りさんっていうのは実はもうほとんど変わらないですね。ということは、島根県は高齢化の先進県であります。その先進県ではもう年寄りのなり手がいないというような厳しい状況になっております。

この島根創生計画の中に、人口減少に打ち勝つてという言葉があります。先ほどからいろんな御意見が出ました。私、実は産婦人科が専門なもので、島根県の出生率が1.72、結構いい数字なんです。差し当たって1.8、国が言うところの希望出生率までふやしたらどうかなということです。この希望というのは、資料にもありますが、個々人の希望をかなえる少子化対策というのがあります。これを深読みしますと、多様性を認める、いろんな多様性を認めた上での、要するに人口増、出生率の増加をこれからやるんだということです。子供が少ないのはよくないことなのという御意見が先ほどありましたが、やはり子供たちがたくさんいるような社会っていうのは活気があると思いますので、とりあえず、1.8という希望出生率が達成されるようにいろいろな施策を講じていきたい、いかれたい、そのためには医師会はいろんなことで応援をさせていただきますし、また、地域医療を、少子化と高齢化が同時にやっけてまいりますので、これをどういうふうにするか。特に、先ほど御意見ありましたけど、西部では非常に深刻な状況です。これを何とかしないと、やはり住民の方の安心安全な生活が守れないという、もう基本中の基本がございますので、そのためにいろんな施策を充実をしていただきたいと思います。

1つだけ。いろんな項目の中の最後のほうに、暮らしの基盤を支える道路網の整備っていうのがございまして、これは実は我々もかねてからお願いしておりますが、特に高速道路網が整備されますと救急の体制が非常に充実してまいります。各都市間、圏域といいま

すが、出雲、大田、浜田、益田というこの中、遠くからですとドクターヘリで飛んでしましますが。近いところから、例えば大田から出雲へ行く、浜田から出雲へ行く、益田へ行くってようなことは、道路網の整備ってというのが非常にきいてきますので、医療の形をある程度変えていくということになりますので、この辺についても、どうかよろしくお願いをいたします。以上です。

○会長 ありがとうございます。

○委員 私は、2年前に大阪からIターンで知夫里島に行きました。地域おこし協力隊、一応2年の、今月で卒業して、一旦起業で、定住に向けてちょっと1つ目のチャレンジをしているところなんですけれども、そもそも知夫里島に来た理由は、きっかけは旅行なんです。その時代は大阪でずっと普通にサラリーマン生活をしてまして、もう朝晩の満員電車で揺られ、残業して、休みもなく、すごくフル稼働で働いてまして、利益追求の日々もちょっと何かどこかで無理が出てきたので、体調もやっぱり壊したんですけど、必死で働いて稼いだそのお金をそのまま体を壊した病院に横流しして支払っているっていうそのループが、もう本末転倒で破綻していると思って、東日本大震災があったときも、ちょっと泥かきのボランティアに行ったきっかけもあって、あの現場を見たときもすごい大きなきっかけにはなってるんですけど、やっぱりちょっと生き方を変えなきゃ、もう、何ていうんですかね、生きていけないと思ったのがきっかけで、サラリーマンの末期の最後のほうは、都会、都市部は物も情報も人もこんなにあふれてるのに、私が本当に欲しいものがないっていう、ちょっと何か満たされてない自分を感じて、知夫にふらっと旅行来たときに、ここは本当に何も無いけど私が本当に欲しいものは全部あるって、何かずばんと直観できたので、もうその興奮のまま移住っていう形で、もうここが私の土地だぐらいの一目ぼれで移住したんですけど、今もその気持ちは変わらず、知夫、今、640人で、すごい小さな自治体の中でなかなか濃密な時間を過ごしてます。

小さい島というより、何か大きな船で、みんなで老若男女、必死にオールをこいで何とか回しているような世界観の中で、2年、ちょっと身を置いたんですけど、何か、何を豊かとするかっていうところがやっぱり大事かなっていうのがあって、人口減少はもう日本全国どこでも起こって、地域おこしの間、ちょっと観光PRとかのイベントとか、定住とかのイベントにも出させていただくことがあったので、そういう現場も見たんですけど、過疎とか、地域はどこも減ってて必死で、そういうイベントとか定住関係のとき、みんな必死でうち来てくださいというPRをすごいするんですけど、もう何かとり合いになって

て、ちょっと悲壮感じゃないですけど、必死感が出過ぎて、何かそれでここに行きたいって思う人はいるのかなみたいな、1カ所の会場にそういうエリアが、びしっとブース並んで、みんな必死にPRするんですけど、それは何かこっちの一方通行の気持ちなだけで、移住したい人とかが求めていることの情報とかニーズの部分をPRできてるのだろうかという、自分がIターンだったもので、そういう客観的な冷めた気持ちがちよっとあって、そうですね、何かこの島根の目指す将来像、人口減少に打ち勝ちっていう、何かもう人口減少に打ち勝ちが私の中ではちょっとマイナスというか、もう何か悲壮感が、悲しいイメージがちよっとあって、それよりもやっぱ内部の住んでいる人たちの幸せがにじみあふれてたら、うちの県いいで、みんな都会生活しんどいんだったら島根おいでよとかって気安く言えると思うので、やっぱり内部からの高まるものが大切なんじゃないかなと自分でも思ってます。なので、知夫での生活も絶対に自分が一番楽しむ、自分が一番、もう知夫最高やねんって言える状態で過ごすっていうのを日々、心がけなくても全然、知夫大好きなんで楽しくやってるんですけど。

あと、そうですね、いろんな何もゆかりのないところから人を引っ張ってくるのはやっぱり難しいなと思ってるんですけど、やっぱり出郷者っていうのがいると思うので、たくさん、相当な数。そもそも何かもう糸につながってるところを手繰り寄せるっていう、そこは今のとこどんなことが行われているのかな、すいません、ちょっとまだ勉強不足で。出郷者に突き刺さるワードだったり、キーワードだったり、情報とかをちゃんと届いていくのかっていう、そことか。出ていった人たちがそもそも出なかったら人口減少は起きなかったわけだし、もともとの場所があれば、それはきっとベストな状態で。でも、自分もIターンなんでわかるんですよ、何で自分のところに行かないのかっていう、私も自分の地元出てるので。それっていうのは、親世代とは、自分の1個上の世代とはやっぱけんかしてしまうんですよ、何か張り合っちゃうというか。なんですけど、1個飛び越えて、おじいちゃん、おばあちゃんの世代になると、もう、やっぱり戦後とか生き抜いてきたとか、畑のこと、海のこと、自然とともに何も無い時代生きてきたおじいちゃん、おばあちゃん。俺らの生活は、私たちからするともうリスペクトでしかなくって、まして、保存食の作り方一つにしてもすごく新鮮に感じるの、会社でも多分言えるんです。何か1個、一つつながりのこの世代のつながりは反発しやすいので、もう飛んでしまって、Uターンも、何かもう孫ターンターゲットぐらいで、おじいちゃん、おばあちゃんと子供のころ住んだいい思い出がある場所に、しがらみもないお孫さん世代とか、そういうところに何かちょ

っと、家を買って来ませんかって言うと、絶対必然的に孫世代は若い世代、子供ちゃんもきっと産み育ててたり、既にいたり、今から可能性があったりとか。おじいちゃま、おばあちゃまからすると、若い孫の世代はもうかわいいから構いたくて仕方ないし、もう勝手に関係性が、コミュニケーションが生まれて、若い子たちの新しい情報とか、こういうインターネット社会で新しく目まぐるしく変わる時代に寄り添ってるあの若い世代は、おじいちゃま、おばあちゃまにはすごい張り合いになって、何かそういうかかわりが結構簡単にぼんって、世代1個挟むと、飛び級すると、すごく簡単につながれるなっていうのを知夫でも感じたり、自分の親とかより、自分のじいちゃん、ばあちゃん世代とかで考えると甘えやすかったりするなっていうのを感じたので、UIターンっていう、人口減少、どっかから持ってくるにしても、ターゲット層をもうちょっと絞って、突き刺さるワードとかのそういうPRでも何かいいんじゃないかなっていうのがちょっと個人的な意見で、すいません、長々と。言いたいことはいっぱいあるんですけど、こちらはまた次回からの会議で、よろしくお願いします。ありがとうございました。

○会長 どうも皆さん、ありがとうございました。貴重な意見をいただきました。

それでは、ちょっと意見交換という話もありましたけども、もう時間ちょっと定時過ぎておりますので、本日の意見交換については以上とさせていただきたいと思います。

ただいま各委員から出されました意見につきましては、事務局で検討をいただき、また次回に御回答いただければと思いますけども、よろしくお願ひいたします。

それでは、今、意見をいただいた上でですけども、知事のほうから何かコメントいただければと思います。よろしくお願ひいたします。

○丸山知事 本日は、人口減少をどう捉えるかということについても、それほど悲観的に見なくても、やはりそれはそれでふえないと、でも、いろんな評価がある、そういう恐らく県民の皆さんの中でもあるような2つの見方も出していただきましたし、そういういろんな見方でこの物事を捉えていきませんか、県民の皆さん方の思いを受けとめることはできないと思いますので、こういった形で自由な立場で御所見をいただけたのは本当にありがたいことだったと思っておりますし、また、親の視点で考えるのか、子供の視点で考えるのか、恐らく両方ということになると思いますけども、特に子供さんにとって本当にそれがいいのかっていうことの視点を忘れがちじゃないかということは、本当になかなか我々行政の中で議論しておりますと、ちょっと教育委員会であれば別かもしれませんが、我々知事部局の中では出てこない御指摘であったと思いますので、特に留意をしない

けないなと思いましたが、島根の出生率が高い、つまり、島根で子育てをしようと思う若い方々が多いという要因分析が必要なのではないかと。そして、そこを伸ばしていくとか、そこを守っていくとか、そういう分析が必要ではないかといった御指摘もございましたので、確かに御指摘のとおりでございまして、ちょっと断定的に推定することは難しいとは思いますが、こういったことが考えられるんじゃないかっていうこと、そこをどう伸ばしていくか、どう守っていくかといったことについても考えていかなきゃいけないなと思ったところでございます。

ちょっとお一方お一方ずつの御指摘についてのコメントに及びませんが、いただいた御意見踏まえまして、次回の会に臨ませていただきたいと思います。

きょうは大変長時間、お忙しい時間を頂戴いたしまして、本当にありがとうございました。またこの計画の内容を詰めて、充実したものにしていきたいと思っておりますので、引き続きまして、お力添えよろしく願いいたします。ありがとうございました。

○会長 どうもありがとうございました。

我々も知事の方針、ビジョンに従って、島根県のあすをしっかりとつくっていきたい、また、そのための議論をこれからも続けてまいりたいと思っておりますので、またよろしく願いいたします。

それでは、最後に、事務局のほうから何かありましたら、お願いいたします。

○事務局 今後の日程につきまして説明をさせていただきます。今後の審議会の進め方につきましては、今回お諮りいたしました島根創生計画、これは本年度内に策定をすることとしておりますが、各市町村の総合戦略の策定、それから予算編成、こういったようなことを踏まえまして、年内のできるだけ早い時期に策定を目指したいと考えております。このため、現時点では年内にあと2回程度、審議会を開催させていただきたいと考えております。

次回の審議会ですけれども、今回いただきました御意見に加えまして、7月中旬から8月上旬に開催予定の、地域で回って公聴会しますけれども、この御意見などを踏まえまして、計画の素案を策定したいと考えております。

次回の審議会は8月27日に、できれば計画の素案ということをお諮りしたいと、審議をいただきたいということを目指していきたいと考えております。以上です。

○会長 ありがとうございました。

それでは、本日の議事を終了いたしましたので、進行を事務局のほうにお返しします。

よろしく申し上げます。

○事務局 本日は大変ありがとうございました。本日、御発言いただきましたことにつきましては、議事録を作成し、近日中に送付をさせていただきますので、御確認をいただければと思います。

今回は、先ほど申しました8月27日に開催させていただきますので、後日、事務局から改めて日程につきまして御案内させていただきます。皆様、大変お忙しいところでしょうが、何とぞよろしく願いをいたします。

それでは、以上で本日の会議を終了いたします。本日はありがとうございました。

○会長 どうもありがとうございました。